

## 現金過不足および現金の決算整理 《決算整理》

- ・現金過不足は、原因不明な（ ）を一時的に振替えておくものであり、原因が判明した場合には、正しい勘定科目に振替える必要がある。
- ・ただ、決算手続きになっても結局原因が判明しない場合には、費用の科目である（ ）または、収益の科目である（ ）に振替える処理を行う。
- ・ちなみに、現金過不足勘定はあくまで一時的に処理する科目である（ ）に該当し、決算手続きで残高は「0」になる。
- ・また、決算日において現金勘定の帳簿残高と実際有高に差額がある場合は、期中の現金過不足の処理と同様、現金の金額を（ ）の金額に合うように（ ）の金額を調整する仕訳を行う。



- ・ただ、この場合は原因が判明しないことが多いため、不足額がある場合は（ ）勘定へ、過剰額がある場合は（ ）勘定へ振替えることが多い。

## 仕訳の練習問題

1. 現金過不足勘定の借方残高が1,000円あるが、原因は決算手続きにおいても判明しなかった。
2. 現金過不足勘定の貸方残高が2,000円あるが、原因は決算手続きにおいても判明しなかった。
3. 決算日における現金の帳簿残高は3,000円であるが、実際有高は2,600円であった。この差額のうち、300円は「水道光熱費」の記入漏れであることが判明したが、残額は原因不明のため雑損もしくは雑益として処理する。
4. 決算日における現金の帳簿残高は2,500円であるが、実際有高は3,000円であった。この差額のうち、200円は「売上」の記入漏れであることが判明したが、残額は原因不明のため雑損もしくは雑益として処理する。

1. ( ) ( )
2. ( ) ( )
3. ( ) ( )  
( ) ( )
4. ( ) ( )  
( ) ( )